

特集

オンリー・ワン

ここにしかない資源を生かし、新しい発想で勝負する川根本町商工会青年部の挑戦

古くは、この地の生活道路として住民の日常を支えてきた、大井川に架かる数多くの吊り橋。この「吊り橋」を地域活性化に活用できないか。そう考えた本町商工会青年部が立ち上がった。新たな企画の名は「奥大井サスペンスブリッジ恋愛事件」。

構想～準備～実行まで、1年間を要したというこの企画は、新たな観光名所・施設をつくるのではなく、この町に元からある、いわば埋もれた資源にスポットを当て、これまでと違った視点で、誘客を図る新しい取り組みだ。

この企画は今年5月、本町商工会青年部のメイン事業として実現した。ゴールデンウィークがあけた5月中旬、新聞紙上でこの企画が紹介されるや否や、メディアや一般の観光客からの問い合わせが、商工会に殺到。関心の高さが伺えた。

この町のならではの資源を生かした、ほかの町では決して真似のできないオンリーワンの挑戦。

本町のこれからを担う若者たちの「町を元気にしたい」「町を盛り上げたい」…そんな熱い思いが込められている。

本町商工会青年部の挑戦に迫る。

●商工会青年部とはどんな組織か

町内で事業を営む、若手後継者を中心に構成された商工会内の一組織。部員16人。仲間づくり、地域づくりを目的に、「地域全体を考える青年部」を目指している。部員同士は良き仲間であると同時に良きライバル。中部地区の青年部研修会などに参加し、他地域との交流を深めながら、個々の資質向上に努めている。産業文化祭やふるさと祭りなど、各種イベントにも出役。地域の発展のため鋭意活動中。

Only one



藤枝市と島田市から、休日を利用して遊びに来たという大江文人さん、加賀瑞布さん。「今日は2カ所目の吊り橋体験です。夢の吊り橋は初めて訪れましたが、水の色がすごくきれいなところですね。ここは身近で気軽にこれる場所。また遊びに来たいと思います」と話していた。取材後、文人さんが先頭に立ち、後ろの瑞布さんを何度も振り返り、いたわりながら吊り橋の向こう岸へと渡っていった。商工会青年部の企画「サスペンスブリッジ恋愛事件（日帰り券）」を利用してくれた2人だ。